

日本周辺クロマグロ調査委託事業

前田 訓次・鹿熊 信一郎・與那嶺 広治*¹・上原 百合子*¹

1. 目的

本調査は国庫委託(水産庁研究部資源課国際資源班)を受けて平成4年度～平成8年度に実施する。

漁業をめぐる近年の国際情勢に鑑みて、北太平洋におけるまぐろ類、特にクロマグロの資源管理体制の確立が予想される。このため、現在、資源管理に必要な知見の蓄積が充分でない日本周辺に重点を置きつつ、北太平洋海域のまぐろ類の漁業データ・生物学的情報等の収集・解析を行い、北太平洋のまぐろ類等の資源評価に必要な基礎資料を整備することを目的とする。

沖縄県は、本事業を通して、沿岸まぐろ延縄の漁業実態に関する情報を得ることで、将来のまぐろ漁業振興を目指した研究に役立たせることを目的とする。

なお、本事業による調査結果は、水産庁より「平成6年度日本周辺クロマグロ調査委託事業報告書」として発行されているので、ここでは、沖縄県の担当した結果のうち、特に、クロマグロの漁場の推移(平成5年分および平成6年分)についての要約を記すことにする。

2. 要約

- ① 平成5年および平成6年に、糸満新港(正式には糸満漁港北地区)にある沖縄県水産公社に水揚げされたクロマグロについて調査した分について取り纏めた。
- ② まぐろ延縄船の船長からクロマグロを漁獲した月日および位置等を聞き取りした。
- ③ 糸満新港水揚げ分についての漁獲日は、平成5年は4月1日～7月11日、平成6年は4月3日～7月4日であった。
- ④ 盛漁期は、平成5年は5月中旬～下旬(総漁獲尾数の73.2%)、平成6年は5月上旬～下旬(78.6%)であった。(図1)

- ⑤ 主漁場は、4月は沖縄島東海域から南海域にかけてであり、5月はそれらの海域から更に沖縄島南西海域および西海域(東シナ海)へと広がった。6月は5月に似るが、西海域が主体となった。7月は殆ど漁獲はなかった。(図2, 図3)
- ⑥ 平成5年および平成6年の糸満新港(沖縄県水産公社)と那覇地区漁協(泊漁港)のクロマグロの水揚げ状況は(表1)のとおりであり、平成6年は那覇地区漁協が増加している。
- ⑦ ((留意点))鹿児島県の喜界島沖海域以北の漁場で漁獲されたクロマグロは、宮崎県および鹿児島県へ水揚げされるので、糸満新港での調査結果には殆ど出てこない。

3. 参考文献

- 本永文彦・前田訓次・高江弘子・與那嶺広治(1994)
：日本周辺クロマグロ調査委託事業、平成4年度沖縄県水産試験場事業報告書、104。
- 本永文彦・前田訓次・高江弘子・與那嶺広治(1995)
：日本周辺クロマグロ調査委託事業、平成5年度 同上、59-61。

*¹非常勤職員

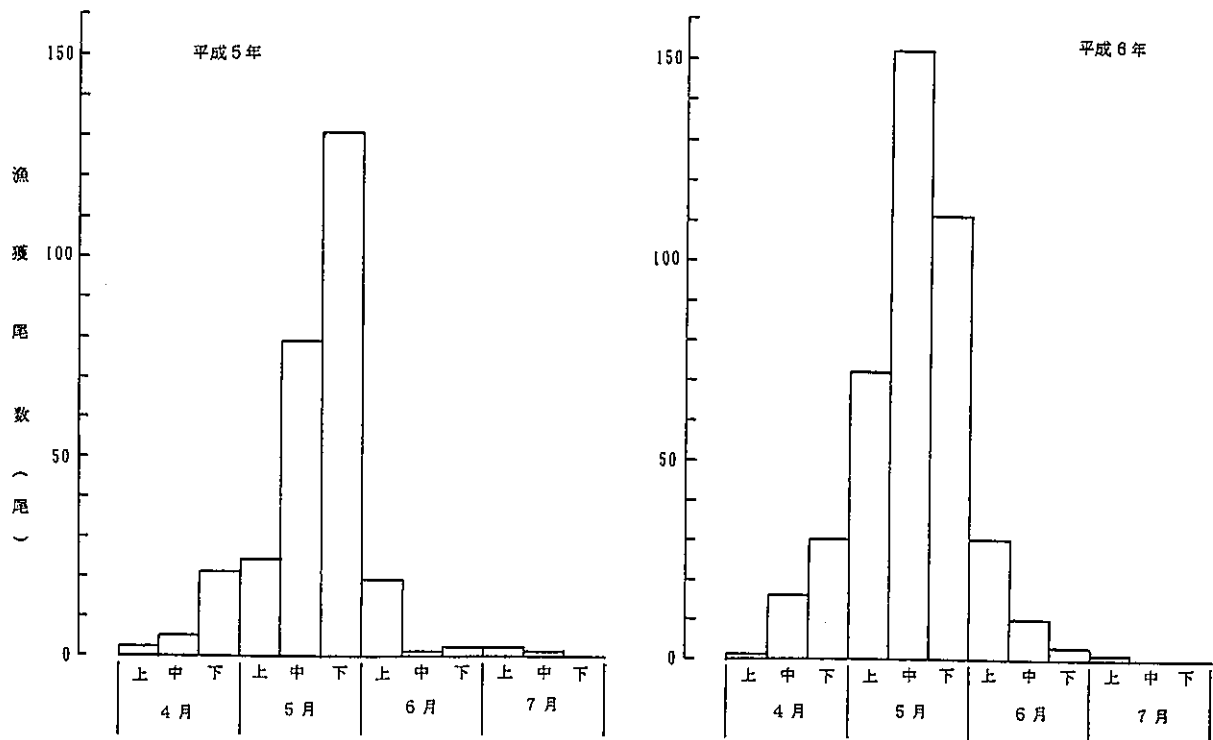


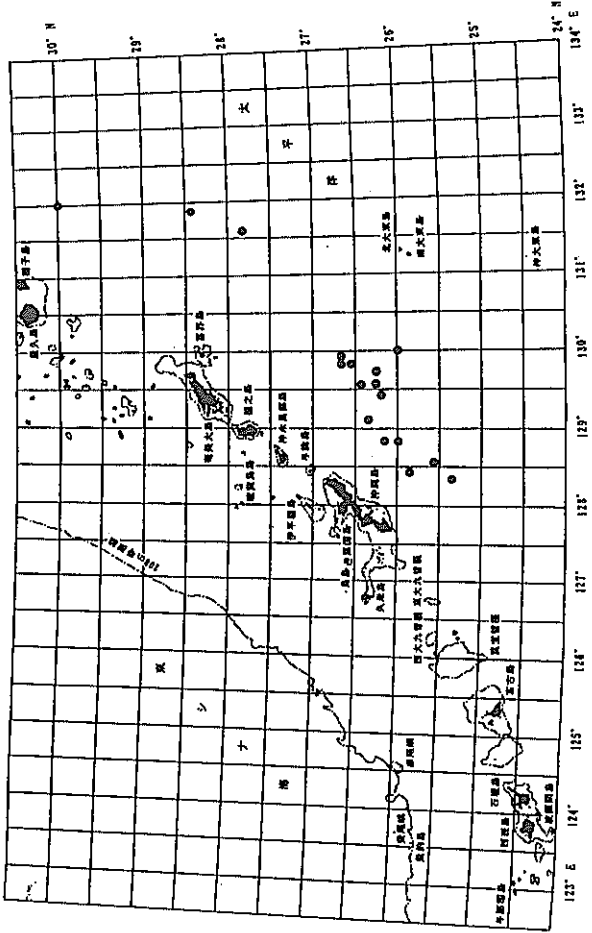
図1 クロマグロの旬別漁獲尾数
(漁獲の月日および位置が判明している分)

表1 クロマグロの水揚げ状況

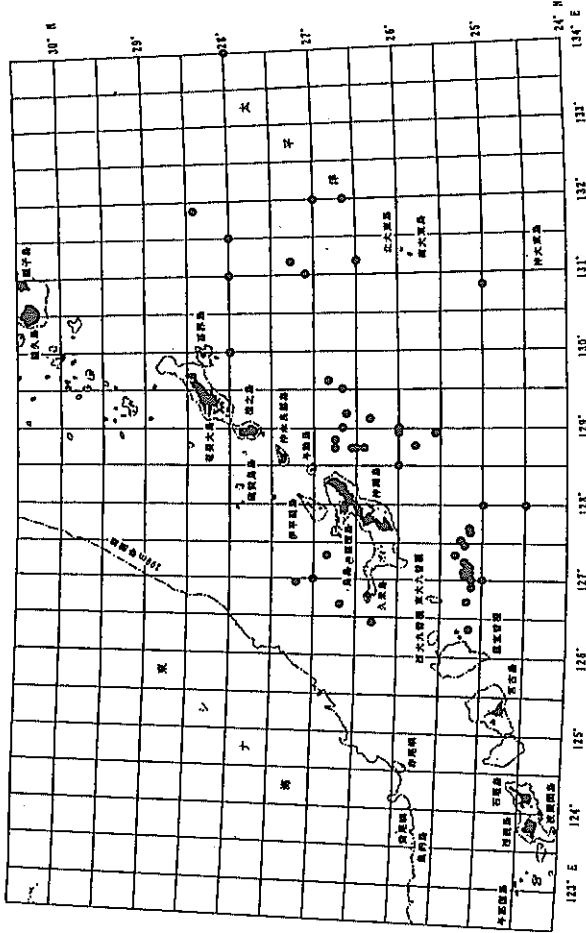
(単位：kg)

年	地区	4月	5月	6月	7月	計
平成5年	糸満新港	2,770	41,718	8,646	1,044	54,178
	那覇地区漁協	1,798	2,669	1,368	115	5,950
	計	4,568	44,387	10,014	1,159	60,128
平成6年	糸満新港	5,633	42,978	8,761	196	57,567
	那覇地区漁協	10,225	40,195	8,456	3,256	62,132
	計	15,858	83,173	17,217	3,452	119,699

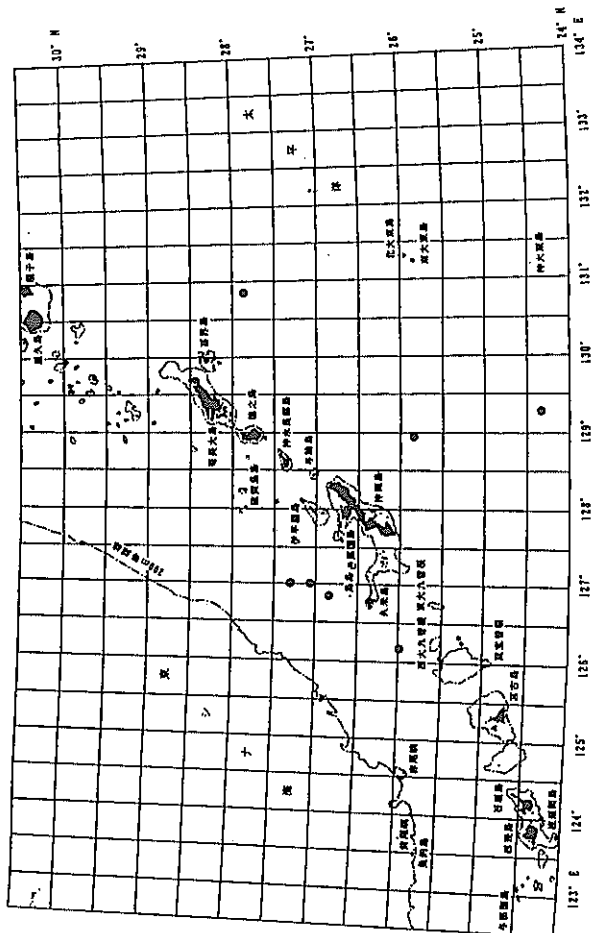
資料：沖縄県水産試験場漁獲統計



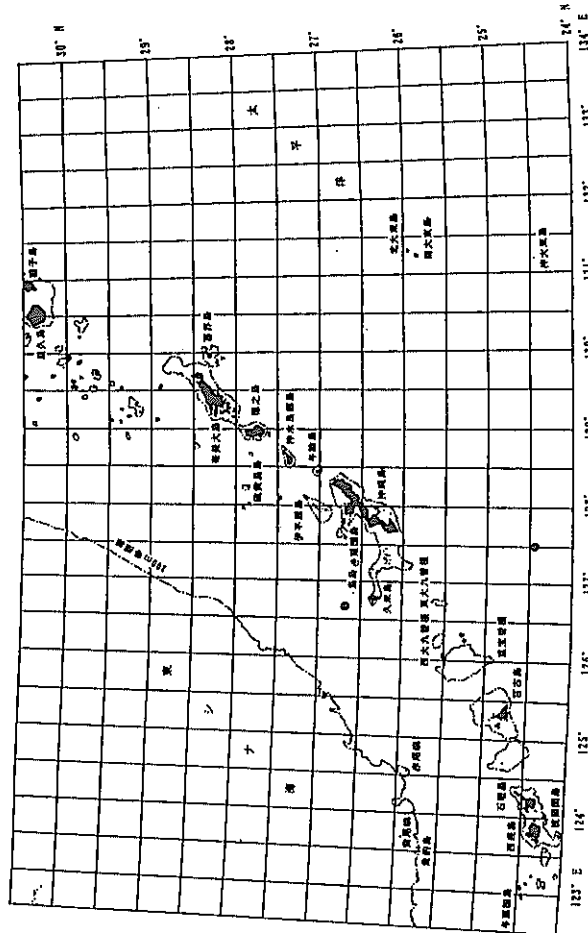
4月



5月

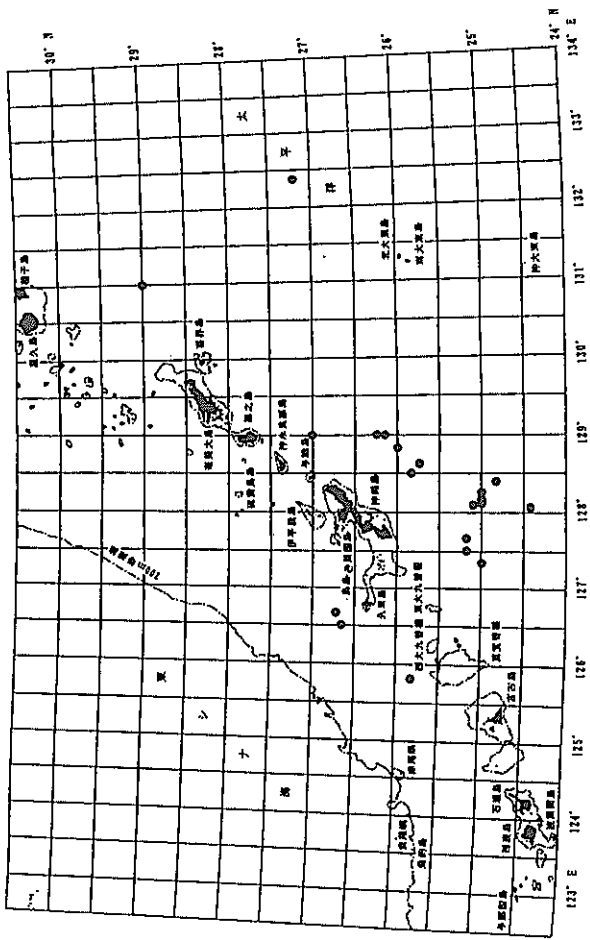


6月

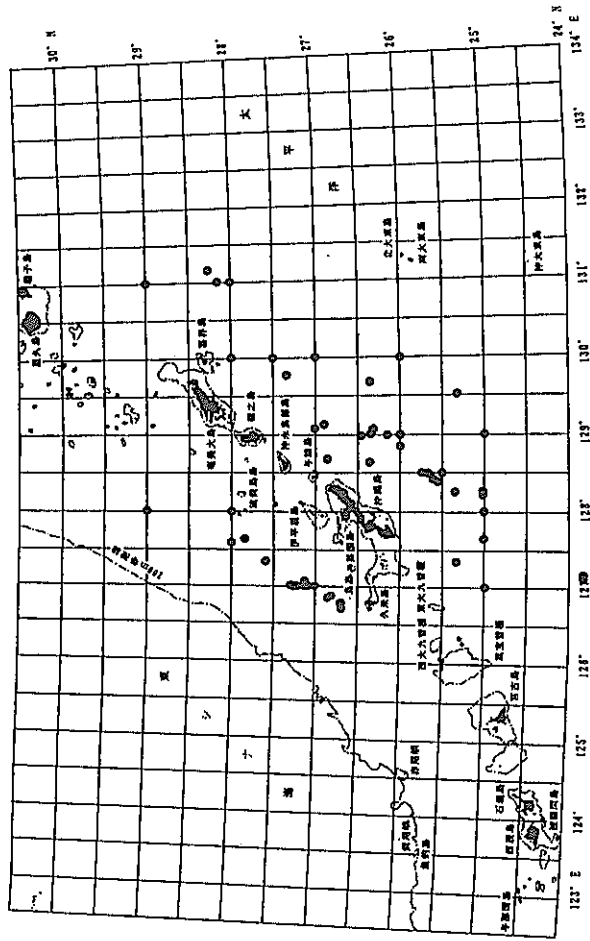


7月

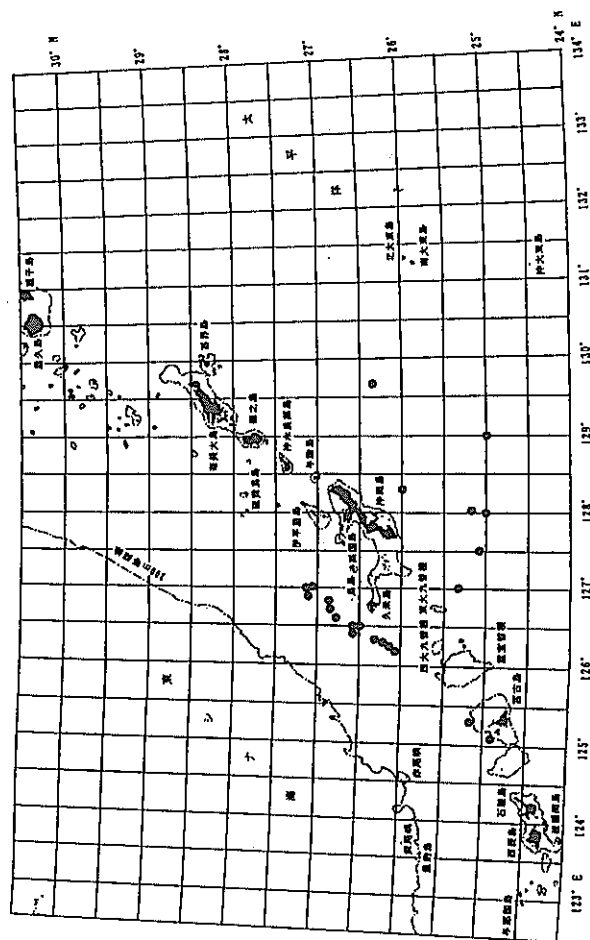
図2 クロマグロの漁獲位置 (平成5年)



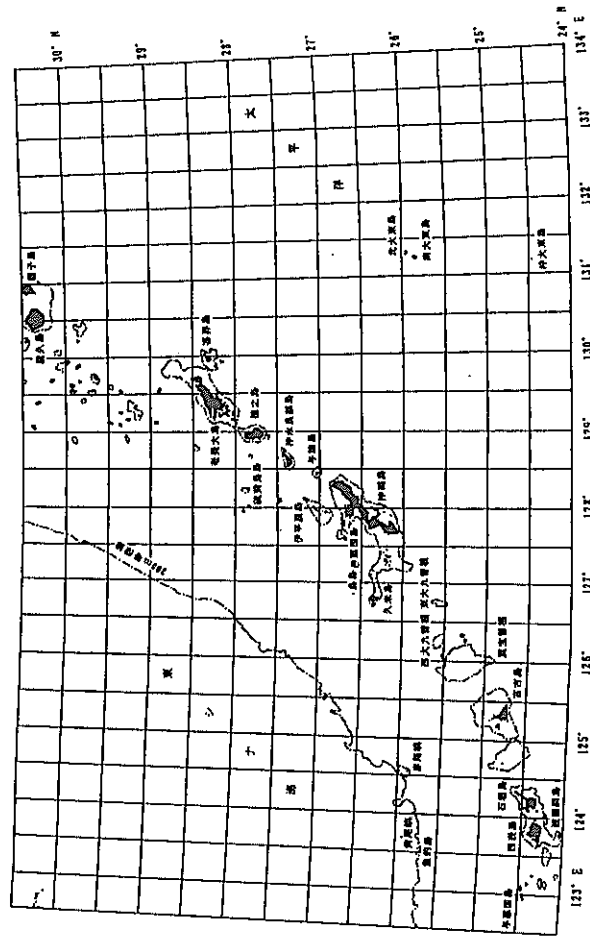
4 月



5 月



6 月



7 月 (18°N, 131°E)

図3 クロマガゴの漁獲位置 (平成6年)